

組合だより

JA

おからく

牛乳で
スマイル
プロジェクト

2026

3

vol.285

令和8年3月13日発行

発行：おかやま酪農業協同組合

責任者：小椋 孝史

津山市川崎94-1

☎(0868)26-1101

令和7年度

「牛乳大好き！絵画コンクール」受賞作品



最優秀賞 県知事賞 倉敷市立長尾小学校5年 小野凌太郎

(絵の説明)

牛乳は栄養満点で体に必要なカルシウムがたくさんあります。そんなおいしい牛乳に感謝を込めて描きました。牛乳イイじゃん。

現況調査まとめ

乳牛総頭数は13,521頭

令和8年2月1日現在での現況調査を行いましたので、その結果をご報告いたします。組合員の皆様には、ご協力いただき、ありがとうございます。

☆戸数・頭数

乳牛の飼養戸数及び頭数は表1のとおり138戸、13,521頭と前年2月に比べ戸数では5戸減少、頭数では221頭の減少となりました。品種別ではホルスタイン種は12,217頭(187頭減)ジャージー種他は1,304頭(34頭減)でした。

飼養戸数の内訳は、表2のとおり関係機関を除く搾乳農家が134戸、育成農家2戸、関係機関5戸です。また、肉用牛飼養農家は37戸でした。

経産牛頭数は9,806頭(383頭減)育成牛頭数は3,715頭(162頭増)。1戸当たりの平均飼養頭数は95.9頭(1.8頭増)、平均経産牛頭数は69.5頭(0.3頭増)。育成牛率は27.5%となりました。

☆各地区の飼養状況

乳牛飼養総頭数を地区ごとに見ると(表1)西大寺地区が46頭減少、備南地区が60頭減少、びほく地区が12頭増加。津山事務所では、勝英地区が7頭増加、津山地区が34頭減少、真庭地区が100頭減少となりました。全体では221頭の減少となっております。

また、育成牛率で全体の平均より高い地区は津山、西大寺、真庭の順となっております。

☆飼養頭数別の酪農家戸数

表3の飼養頭数別酪農家戸数をみますと30頭未満の飼養農家は32戸(23.0%)、30頭から49頭の飼養農家は32戸(23.0%)、50頭から79頭の飼養農家は37戸(26.6%)、80頭から149頭の飼養農家は24戸(17.3%)、150頭から499頭の飼養農家は11戸(7.9%)、500頭以上の飼養農家は3戸(2.2%)となっております。

☆哺育素牛・肥育・和牛繁殖関係の頭数

哺育素牛・肥育・和牛繁殖牛の総頭数は6,896頭です。うち哺育農家、肥育農家、和牛繁殖農家の飼養するホルスタイン・F1・和牛等の頭数は5,013頭となっております。

また、酪農家の飼養する和牛・F1等の哺育素牛・肥育・和牛繁殖牛の総頭数は1,883頭です。

☆飼料作付面積

自給飼料の作付面積については、全体で1,557ha、スーダン・ソルゴー、とうもろこし、その他の順でした。

(生産支援課)

乳牛頭数等取りまとめ表(表1)

令和8年2月1日現在

	西大寺	備南	びほく	小計	勝英	津山	真庭	小計	おからく 合計
乳牛飼養戸数 (対前年増減)	17 ▲3	21 ▲1	15 0	53 ▲4	24 0	27 1	34 ▲2	85 ▲1	138 ▲5
乳牛総頭数 (対前年増減)	845 ▲46	6,058 ▲60	977 12	7,880 ▲94	1,796 7	1,530 ▲34	2,315 ▲100	5,641 ▲127	13,521 ▲221
経産牛頭数 (対前年増減)	554 ▲42	4,568 ▲120	718 13	5,840 ▲149	1,374 ▲50	991 ▲84	1,601 ▲100	3,966 ▲234	9,806 ▲383
経産牛頭数の 占める割合(%)	5.6%	46.6%	7.3%	59.6%	14.0%	10.1%	16.3%	40.4%	
経産牛率(%)	65.6%	75.4%	73.5%	74.1%	76.5%	64.8%	69.2%	70.3%	72.5%
育成牛率(%)	34.4%	24.6%	26.5%	25.9%	23.5%	35.2%	30.8%	29.7%	27.5%
ホルスタイン種	840	6,052	977	7,869	1,796	1,530	1,022	4,348	12,217
ジャージー種他	5	6	0	11	0	0	1,293	1,293	1,304

※酪大第1牧場及び第2牧場は1農場とする。

おからく 現況調査総括表(表2)

令和8年2月1日現在

		西大寺	備南	びほく	小計	勝英	津山	真庭	小計	おからく 合計
酪農家戸数	搾乳農家	16	21	15	52	24	26	32	82	134
	育成農家	1	0	0	1	0	0	1	1	2
	合計	17	21	15	53	24	26	33	83	136
関係機関戸数	搾乳農家	1	0	0	1	0	1	2	3	4
	育成農家	0	0	0	0	0	0	1	1	1
	合計	1	0	0	1	0	1	3	4	5
酪農場総数 (乳牛飼養戸数)	搾乳農家	17	21	15	53	24	27	34	85	138
	育成農家	1	0	0	1	0	0	2	2	3
	合計	18	21	15	54	24	27	36	87	141
肉用牛飼養農家戸数		3	6	3	12	9	13	3	25	37
総農家戸数(関係機関を含む)		21	27	18	66	33	40	39	112	178
ホルスタイン 頭数	6ヶ月未満	83	397	77	557	129	167	88	384	941
	6～24ヶ月	166	880	178	1,224	293	372	211	876	2,100
	24ヶ月以上	591	4,775	722	6,088	1,374	991	723	3,088	9,176
	合計	840	6,052	977	7,869	1,796	1,530	1,022	4,348	12,217
	うち経産牛頭数	549	4,568	718	5,835	1,374	991	706	3,071	8,906
ジャージー他 頭数	6ヶ月未満	0	1	0	1	0	0	109	109	110
	6～24ヶ月	0	0	0	0	0	0	283	283	283
	24ヶ月以上	5	5	0	10	0	0	901	901	911
	合計	5	6	0	11	0	0	1,293	1,293	1,304
	うち経産牛頭数	5	0	0	5	0	0	895	895	900
乳用牛総飼養頭数		845	6,058	977	7,880	1,796	1,530	2,315	5,641	13,521
経産牛頭数		554	4,568	718	5,840	1,374	991	1,601	3,966	9,806
乳用牛1戸当たり飼養頭数		46.9	288.5	65.1	145.9	74.8	56.7	64.3	64.8	95.9
乳用牛1戸当たり経産牛頭数		30.8	217.5	47.9	108.1	57.3	36.7	44.5	45.6	69.5

※酪大第1牧場及び第2牧場は1農場とする。

地区別酪農家戸数(育成農家・関係機関を含む)(表3)

令和8年2月1日現在

	平均 年齢	飼養頭数別酪農家戸数													
		1～9	10～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～79	80～99	100～149	150～249	250～499	500～999	1000～	計
西大寺	70	1	2	1	3	5	1	2	0	2	0	0	0	0	17
備南	54	1	1	0	2	3	2	1	1	3	3	1	2	1	21
びほく	60	0	1	7	2	0	1	1	0	1	1	1	0	0	15
小計	61	2	4	8	7	8	4	4	1	6	4	2	2	1	53
勝英	56	0	1	2	4	4	3	2	2	3	0	2	0	0	23
津山	59	0	5	4	2	1	4	5	3	2	1	0	0	0	27
真庭	56	2	3	1	2	4	7	8	1	6	2	0	0	0	36
小計	57	2	9	7	8	9	14	15	6	11	3	2	0	0	86
合計	59	4	13	15	15	17	18	19	7	17	7	4	2	1	139

※酪大第1牧場及び第2牧場は1農場とする。



大損失!? 子牛の下痢について

全国酪農業協同組合連合会 大阪支所 中四国事務所 伊藤 湧也

はじめに

いつも大変お世話になっております。立春の候、皆様方におかれましては、ますますご活躍のことと存じます。

今回は子牛の下痢についてお話ししようと思います。農家巡回するなかで寒冷期を中心として子牛の下痢について質問をいただく機会が多いです。哺育期の疾病は、その後の発育や分娩後の生産性に悪影響を及ぼします。また治療行為などによる経済的コストもかかるため、経営にも影響を及ぼします。下痢の原因や対策について日頃の哺育期管理に活用できる内容ですので、お付き合いいただければ幸いです。

下痢の原因

下痢などの消化器疾患は呼吸器疾患と並んで離乳前子牛の主な死亡原因です。2017年米国農務省における全米育成牛調査では、死亡原因の56.5%が軟便・下痢・その他消化器系の問題となっており、子牛の23~25.3%が離乳前の下痢や消化器系の問題を経験しています。(出典：全酪連・酪農セミナー2019)

下痢の原因は何でしょうか?多くの方が感染性の下痢を考えられると思います。しかし農家巡回をしていると酸っぱい臭いの下痢や白色の下痢など消化性の下痢による非感染性のものが多かたりします。白色の下痢については細菌感染によるものもありますが、代用乳に含まれる脂肪の末消化によるものもあります。

人的要因としては頻繁な代用乳溶解濃度の変更や誤った溶解濃度の認識が考えられます。代用乳の製品特性で考えると製造方法、原料そのものの消化性、難消化性原料の配合割合などさまざまな要因が考えられます。

現場ではいくつかの要因が複合的に絡んでいる場合が多いです。

下痢の病原菌は発育ステージによって異なります。1週間以内の下痢は大腸菌が原因であることが多く、コクシジウムは3週間以降の発症が多いです。病原体を特定するために糞便検査の実施を依頼した方が良いと思いますが、必ずしも特定できるわけではありません。複数の病原菌が混合感染したものが約50%程度とみえています。(出典：全酪連・酪農セミナー2019、肉牛ジャーナル2019.4)

感染性の下痢の仕組み

感染性の下痢を発症した際に子牛の体内ではどういったことが起きているのでしょうか。病原体が腸管に侵入すると増殖によって腸の組織が傷つき、その結果として腸管内の体液分泌が高まります。破壊された腸内絨毛は栄養素や水分、電解質を吸収する能力が低下します。その結果、腸の内容物や体液の流入によって水様性の糞便となって排出されます。

下痢を防ぐためには

●下痢の対策

- ・衛生管理を行う
 - カーフハッチやペンなど子牛が管理されている環境には雑菌が無数にいます。哺乳器具の洗浄もしっかりと行いましょう。
 - 特に哺乳バケツの乳首に水が溜まっていると細菌感染のリスクが高まるのでご注意ください。細菌感染の原因にならない様に日々の衛生管理をしっかりとしましょう。
- ・初乳管理を行う
 - 生後6時間以内に衛生的かつ高品質な初乳を十分に給与しましょう。時間が経過するに従って抗体の吸収性は低下していきます。免疫移行が上手くいかない場合、疾病罹患率やその後の発育不良につながります。また近年、免疫移行基準も高められていますので初乳マネジメントについては全酪連職員にご相談ください。
- ・高品質代用乳を使用する
 - 子牛の発育能力を十分に発揮できるように哺育期の栄養水準を満たす適切な原料が使用された製品を選びましょう。



- ・常に綺麗かつ新鮮な水を用意する
→哺育期においても飲水は欠かせません。代用乳はあくまで飼料です。スターターの採食量にも影響しますので自由飲水ができる環境を整えてください。

●下痢を発症してしまったら

- ・綺麗かつ新鮮な水を用意する
- ・少量頻回哺乳
→給与回数を増加し、一回あたりの給与量を減らして、消化器系の負担を軽くしましょう。
- ・軽度の脱水の場合、経口補液を行う。
→経口補液の注意点として、補液と代用乳は混ぜて給与しないでください。混ぜてしまうと代用乳の溶解後濃度や浸透圧が変わってしまい消化性の下痢のリスクが高まります。
- ・重度の脱水の場合、速やかに獣医師に相談しましょう。

(出典：全酪連・酪農セミナー2019、肉牛ジャーナル2019.4)

下痢を発症させないためには、環境と衛生管理が何よりも重要です。発症後の対応については自己判断せず、獣医師の診断を仰ぎましょう。

下痢を発症した時に併せて脱水症状にも注意が必要です。子牛も人間と同じように体の多くが水分できています。子牛の場合は約50%が水分です。子牛の死亡理由の多くが下痢そのものではなく、下痢による脱水です。そのため、下痢の発症時に正しい補液を行うことが重要です。

下痢をした時に活力があれば経口補液で十分です。しかし、重度な脱水がおこっている場合は、獣医師へ相談してください。個体管理の場合は日々のようすを確認しやすいですが、群管理の場合は僅かな違いを見極めるのが難しくなります。日々の観察が重要ですので、給餌作業以外にも子牛を観察する時間を設けましょう。何かいつもよりも違う、活力がないなどがありましたら検温して発熱の有無も確認してください。(出典：肉牛ジャーナル2019.4)

哺乳は継続すべき？

子牛が下痢を発症した際に哺乳はどのようにしていますか？断乳して補液のみ行っている方もいらっしゃると思います。断乳することで確かに消化器系の負担は軽くなりますが、哺乳によって得られるエネルギーが途絶えてしまい、体力・免疫機能の低下につながります。そのため子牛の哺乳意欲がある場合は哺乳を継続し、補液は哺乳の間に行いましょう。

哺乳を継続するメリットは上記以外にも腸の組織再生、消化酵素の活性、栄養補給による早期回復などがあります。(出典：全酪連・酪農セミナー2019、肉牛ジャーナル2019.4)

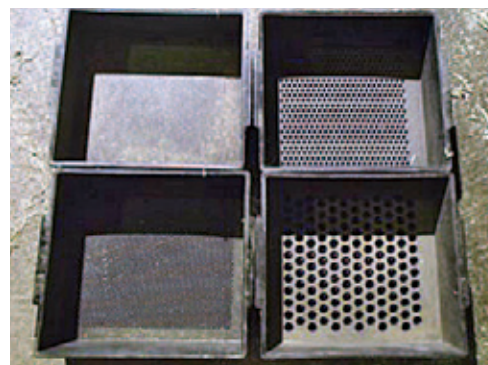
おわりに

今回は子牛の下痢について簡単に書かせていただきました。子牛の下痢を改善することはその後の生産性・経営向上にもつながりますので非常に重要です。ご不明な点がございましたら、全酪連職員へお問い合わせいただければと思います。今後ともよろしくお願い申し上げます。



ペンステートパーティクルセパレーターを使ってみよう

ペンステートパーティクルセパレーター（略：PSPS）はアメリカのペンステート大学で開発された乳牛の飼料設計で使用される飼料用のふるい（篩）で、4段構造からなり、穴のサイズは、上から19mm・8mm・4mm・受け皿となっています。



水平にスライドさせることにより粗飼料およびTMRを粒子サイズ（PeNDF）ごとに分離することができ「実際に牛が口にする飼料がどのくらいの繊維構造を持っているか？」を見える化するための重要なツールです。

測定は、牛が飼槽から食べる前に、TMRが分離・選別される前の状態で行うことが理想的で、実際に給与された飼料で分析することが重要です。

※PeNDF(物理的有効中性デタージェント繊維)は、乳牛の飼料中の繊維がルーメン（第1胃内）で反芻や機能的なマット形成を促す能力を評価する指標。

つまり、「PeNDF」は“かみごたえある繊維”であり、牛がちゃんと噛んで、唾液をたっぷり出すような繊維のことで、飼料の高騰対策と牛の健康管理を両立させるために重要な指標となる

☆☆なぜ粒子サイズ（PeNDF）が重要なのか？☆☆

- ◎TMRの粒子サイズは、反芻行動・唾液分泌・ルーメンpHの安定に影響
- ◎適切な粒子長がないと、選び喰いやルーメンアシドーシスのリスクが高まる
- ◎PSPSを使えば、TMRや粗飼料の粒子サイズを簡易的・定量的に評価できる

☆☆これで何が分かる？☆☆

- ◎TMRが細かすぎるか？粗すぎるか？
- ◎長い繊維が適切な量、含まれているか？（反芻・乳脂率への影響）
- ◎ミキサーの設定（攪拌時間や投入順序、刃の切れ具合等）・混合状態に問題がないか？
- ◎牛が選び喰いしてないか？
- ◎実際に給与されている粒子サイズと設計通りの違いがないか？

☆☆どんな時にパーティクルセパレーターを使うべきか？☆☆

下表のような現場状況で、PSPSを用いた検証が有効となる

乳脂率の低下	TMRの物理的繊維不足や反芻不足を確認
牛の反芻時間が短い	TMRの粒子が細かすぎる可能性（4mm未満の過多）
下痢・ルーメンアシドーシスを疑う状況	ルーメンマット形成不全 選び喰いによるアシドーシス傾向
飼槽に粗飼料（長物）ばかり残っている	牛の選び喰いを疑い、TMRの粒度の分布を確認
新しいTMRミキサーの導入後刃の交換時	適切な混合が出来ているかを粒子サイズで確認 攪拌時間の変更の確認
設計値のNDF/PeNDFとの違い	栄養設計通りの粒子構成が実現されているかを検証
健康不良牛が散見される場合	飼料品質の再確認
粗飼料の切り替え時（特に新物、粗飼料の種類を変えた時など）	粒子分布が設計に合っているかを評価



☆☆パーティクルセパレーター構造☆☆

ふるい	穴のサイズ	主な内容物	役割
上 段 (19mm以上)	19mm	長い繊維	反芻を促し唾液でルーメンを緩衝
中 段 (8～19mm)	8mm	中程度の繊維	反芻補助・微生物分解しやすい
下 段 (4～8mm)	4mm	短い繊維・副産物	PeNDF評価の指標
最下層 (4mm以下)	穴無し	細粒・穀物粉砕物	消化は早いがPeNDF効果は低い

☆☆パーティクルセパレーター使い方☆☆

- 1) 4段のボックスを上から19mm、8mm、4mm、最下層の順に重ねる
- 2) 500g～1kgのTMRや粗飼料を上段に入れる
- 3) 水平方向に5回振って90度回転⇒これを8回（計40回）繰り返す
(滑りの良い台や板の上で行うことが重要)
※約20cmの振り幅で1秒間に最低1回で速度で振動させる
- 4) 各ふるいに残ったサンプルをグラムで計量し、割合(%)を計算する

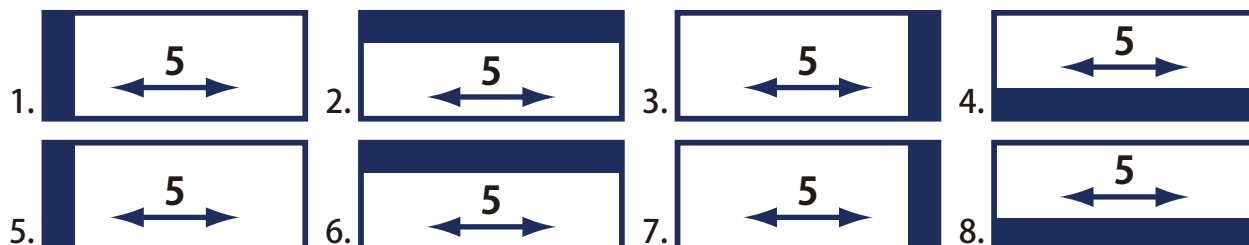
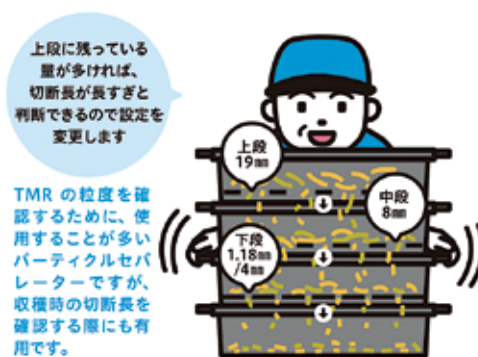
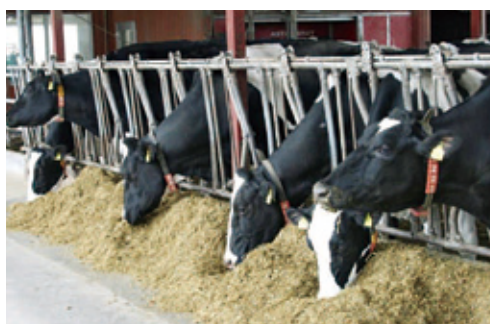


図1 粒別に振り分けるための、ふるい方

☆☆TMRと粗飼料の粒子分布の目安(泌乳牛)☆☆

ふるい段	TMR泌乳期	推奨値	コーンサイレージ	ヘイレージ
上 段 (19mm以上)	2～15%	5%以下	3～8%	10～20%
中 段 (8～19mm)	30～50%	50%以上	45～65%	45～75%
下 段 (4～8mm)	10～20%	10～20%	20～30%	30～40%
最下層 (4mm以下)	30～40%	25～30%	10%以下	10%以下

※推奨値は低水分牧草使用時の値 ※ヘイレージは低水分使用の値
※高水分サイレージ等使用の場合は上段20%以下でも許容範囲



☆☆推奨繊維摂取量☆☆

乳量	総NDF	飼料由来NDF
36kg以上	28～32%	21～27%
27～36kg	33～37%	45～32%
27kg以下	38～42%	29～36%

※総NDF：1.10～1.20%/体重

※飼料NDF：0.75～1.10%/体重

(粒子長が短い場合、トップが少ない場合は0.85%以上が推奨)

☆☆実用的な応用例☆☆

- 1) 極端に長い粒子は選別の原因になり、極端に短い粒子は反芻時間を減少させ、唾液分泌やルーメンpHに悪影響を及ぼす
- 2) 長い繊維が不足している場合、2～3kg以上/日/頭の乾草を追加することで補える場合もある
- 3) 飼料残飼の粒子サイズ変化を測定することで「選び喰い」の有無を確認できる
- 4) ミキサーによる「攪拌過多」「攪拌不足」も、飼槽の各部でTMRを採取して比較することで評価可能
- 5) PSPSでの測定は、現状分析のために1回、改善後(概ね1週間～10日後)に1回、計2回は最低行い改善効果を実証する


☆☆実際に行った事例紹介☆☆

パーティクルセパレーター
 ○○牧場 1回目 R 年 月 日計測
 TMR粒子分布の目安(泌乳牛)


ふるい段	TMR	結果
上段(19mm以上)	2～8%	80 g 17.7 %
中段(8～19mm)	30～50%	120 g 26.6 %
下段(4～8mm)	10～20%	70 g 15.5 %
最下層(4mm以下)	30～40%	180 g 40.0 %

●のう腫が多く改善のため先週からトウモロコシを200g増量、給与量も105%に増量した
 ○結果
 上段の割合が多く、中段の割合が少ない 下段・最下層は適正
 現状の攪拌時間は27分
 投入順＝ロール・オーツ・アルファ⇒配合⇒加水⇒ビート⇒ミネラル⇒とうもろこし
 ○対策
 全体の攪拌時間を延ばすと下段・最下層が多くなってしまふ
 粗飼料だけの攪拌を1分間追加し、その後配合等を投入する(全体で28分)
 1週間後再度パーティクルセパレーターで確認をおこなう
 改善がみられない場合はミキサーの刃を移動、または交換を実施する


上段




中段



下段



最下層




パーティクルセパレーター
 ○○牧場 2回目(1週間後) R 年 月 日計測
 TMR粒子分布の目安(泌乳牛)

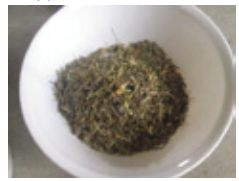
ふるい段	TMR	結果
上段(19mm以上)	2～8%	80 g 15.0 %
中段(8～19mm)	30～50%	140 g 26.4 %
下段(4～8mm)	10～20%	90 g 16.9 %
最下層(4mm以下)	30～40%	220 g 41.5 %

攪拌時間延長による検証
 ○結果
 上段の割合は前回より2%減少したが、中段はほぼ変化なし
 これ以上の攪拌を延長すれば、下段増加の恐れあり
 ○対策
 同時におこなったアナライザーの結果、上段に未消化の穀類がやや多く見られるため、とうもろこし給与量をもとに戻し、油脂給与量を100g/頭から150g/頭に増量する
 ミキサーの刃を交換し、短時間で切断できるよう調整し、再度計測する


上段




中段



下段



最下層



1回目で現状把握をし、2回目で攪拌時間を改善した。上・中段槽にもう少し改善点を要するため、摩耗した刃の交換を行い、再度調整を行うこととした。

このようなフォローをしていきます。ぜひPSPSで計測してみてください。

おからくでは、PSPSを常備していますので、各事務所へお問い合わせください。

(事業本部)

「供卵牛情報と採卵計画（4月分）」について

岡山県農林水産総合センター 畜産研究所

4月の採卵計画をお知らせします。ご利用の場合より詳細な情報が必要な場合は、最寄りの家畜保健衛生所、受精卵移植師の方等にご相談ください。なお、能力評価を牛群検定成績から行うため、検定参加農家の方を譲渡対象としています。また、採卵予定日や交配予定種雄牛については、急遽変更になる場合がありますので、あらかじめご了承ください。次回の採卵は5月14日を予定しています。※ご要望・ご意見等ありましたら、畜産研究所までご連絡ください。

【優良牛】（選別性判別無し@32,560、雌判別@43,450）	供卵牛の遺伝能力評価等	採卵予定日
♀：OAC キヤメロン モントーヤ キヤスト チヤシテイ ET 登録番号：13549 7203 6 輸入卵産子の子、総合指数・産乳成分に優れる		4 / 9
♂：トウルーパー (614H15179) 米国6位 乳成分に優れる 乳器、肢蹄が良好でロボット向き		

交配精液は、長命連産事業対象 (@6,000円) です。事業の詳細は、おかやま酪農協へお問い合わせいただくか、農林水産省のホームページをご覧ください。

在庫卵情報（在群上位牛、ダイレクト凍結卵）

R 8年2月末時点

採卵牛	総合指数	順位	系統	種雄牛	TPI	NTP	在庫数	
ウルル	1390973202	3267	1%	ウエストジェット	トウルーパー (♀) 614H15179	3334	3645	3
					オーウエン (♀) 777H12666	3089	-	6
					エンパワー (♀) 629H20939	3072	-	7
					レネゲード (♀) 550H14134	3058	3198	3
キヤツプ	1509873645	3116	1%	チヤシテイ	パースーツ (♀) 777H11186	3030	3136	6
キヤスト	1354972036	2928	4%	キヤメロン	デデイケート (♀) 551H3590	2998	2760	3
キルト	1354871971	2915	5%	キヤロットK	レッチワース (♀) 550H16110	3128	2863	4
リア	1390973165	2908	5%	リラZ	トウルーパー (♀) 614H15179	3334	3645	4

全て選別精液ダイレクト凍結卵
 その他、性判別雌卵（ガラス化保存）等もありますのでお問い合わせください。

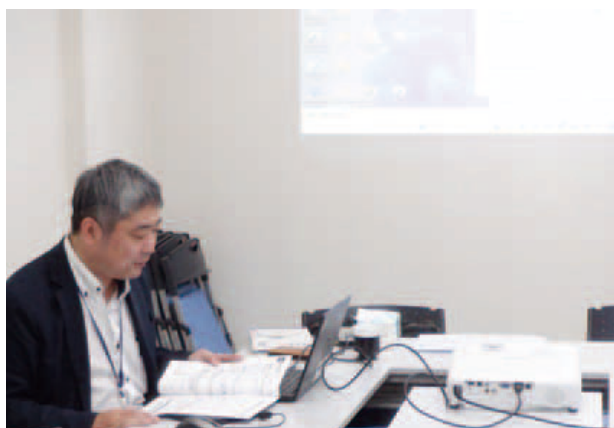
ソリマチ農業簿記研修会

2月12日、蒜山事務所会議室でソリマチ農業簿記研修会を開催しました。

今回の研修会は、ソリマチを導入し開始される方や今後経営継承を予定されている青色申告書作成のため導入を検討されている方を対象にご案内しました。

講師にソリマチ(株)セールス&マーケティング本部農業情報営業部中国ブロックリーダー 神田良和氏をお迎えし、ご講演いただきました。

はじめに、青色申告の主な特典①青色申告特別控除②専従者給与の必要経費が参入できること③純損失の



神田先生



研修会風景

繰越控除等について説明があり、その後ソリマチソフトの導入・設定作業を行いました。

午後からは実際に決算書の作成を体験し、今回導入された方は早速今期の決算から取り組むと言われていました。また、経営継承予定の方には講師から、「自分で青色申告書を作成し経営を分析することが大切(利益率の把握)」と話されました。少人数の参加者でしたが、それぞれ各レベルに応じた研修をしていただき、大変有意義な研修会になりました。

(蒜山事務所)

ひろば

癒やしの時間

総務経理課 佐倉 淑乃

昨年の異動で総務経理課に配属となり、まもなく1年を迎えようとしています。まだまだ学ぶことも多く、慣れたとは言いがたのですが、日々一生懸命業務にあたっています。そんな毎日を癒してくれる私の習慣の一つを紹介します。

週末になると私は飼い犬と散歩に出かけます。寒い冬でも一度歩き始めるとポカポカと汗ばむくらいです。それがダイエットにつながっているかは別として、健康には何となくいい気がします。また、車での仕事の行き帰りでは中々感じられませんが、のんびり歩くと、空気の冷たさや匂い、花、草木の芽吹きや落ち葉など、季節の変化がとてもよく分かります。



ます。特に好きなのは、早朝、人も車もほとんどいない静けさにつつまれた街を歩くことです。1時間ほどの散歩を終えると、とてもリフレッシュした気持ちになります。家に帰り家族とにぎやかに過ごす日常もまた、心の癒やしです。これからも充電しながら、少しずつ頑張っていきたいと思えます。

笑味ちゃん天気予報がやってきた!

(RSKテレビ) 月々金 18時50分より

2月9日放送の笑味ちゃん天気予報の担い手紹介コーナーで、(株)ミルクファクトリー・キシモト 坂本治城さん(勝田郡勝央町)が紹介されました。

島根県出身の坂本さんは現在30歳。動物が好きで、中学生の頃の職場体験で牧場を訪れたことがきっかけで酪農に興味を持ち、「酪農っていいな」と感じたそうです。

高校は普通高校に進学しましたが、酪農を本格的に学ぶため、中国四国酪農大学校へ進学。卒業後は島根県の牧場へ従業員として就職しま

した。

その後、大学の同級生だった、岸本さんの長女の瀬奈さんと結婚。奥さんの実家が営む牧場で就農されました。

現在は約300頭を飼養する牧場で、子牛の担当をしています。「作業は大変。でも、それがやりがいになる」と仰っていました。哺乳ロボットやエサ寄せロボットを導入し、日々の作業の効率化にも積極的に取り組んでおられます。

将来は地域を引っ張っていける牧場を目指し、牛たちと向き合い、日々努力を重ねています。

インタビューでは、ひとつひとつの質問に丁寧に言葉を選びながら答えるようすが印象的でした。

これからの挑戦とご活躍を心より応援しております。お忙しい中、取材にご協力いただきありがとうございます。

(生乳課)

番組では、曜日によりテーマを決めて放送しています。

- ・月曜日 担い手・JA職員紹介・高校生の紹介
- ・火曜日 農畜産物の紹介
- ・水曜日 火曜日に紹介した農畜産



坂本さん(左)と古米リポーター



物を使った料理の紹介・栄養士による料理・栄養等の紹介

・木曜日 JA活動紹介・市町村の紹介

・金曜日 直売所・イベント紹介
搾乳等お忙しい時間帯の放送になりますが、ご都合のつくときはぜひ観てください。また、取材にもご協力くださいますようお願いいたします。

理事

会報

告

令和8年2月2日、第309回理事会を理事9名、監事3名が出席し、開催した。

檜尾組合長より酪農一般情勢等について報告された。

その後、次の事項を協議し、決定した。

○令和7年度生乳需給安定化対策について

令和7年度12月の生乳需給安定化対策の進捗状況等について報告した。

○令和7年度着地見込について
令和7年度事業進捗予想を確認した。

○報告事項

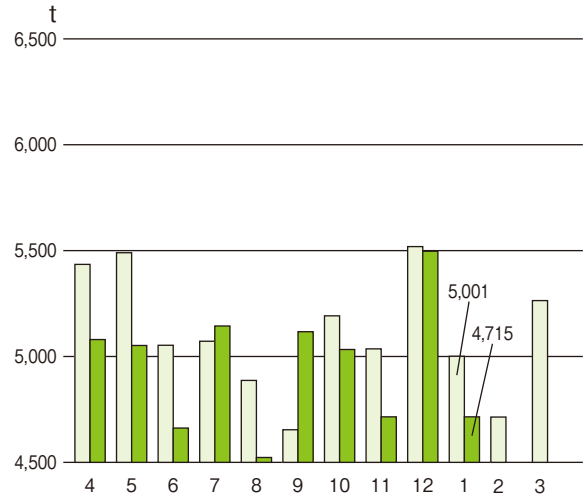
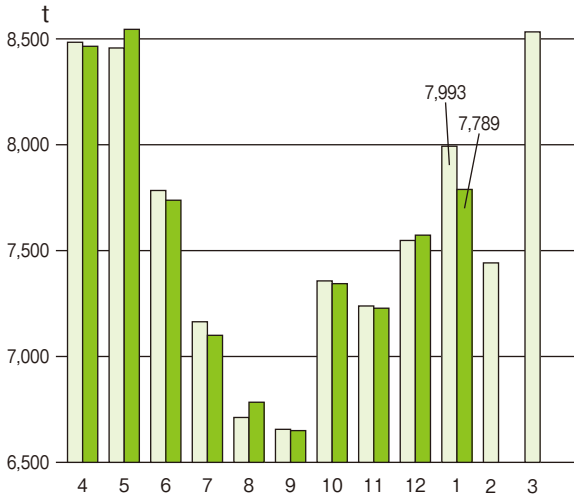
定例監事監査について、第3四半期苦情等の報告について、正組合員の状況について報告した。



おからく事業実績

■ 生乳販売量(令和7年度) □ 生乳販売量(令和6年度)

■ 購買取扱数量(令和7年度) □ 購買取扱数量(令和6年度)



生乳統計

※中央酪農会議速報より抜粋

地域	月	受託乳量(トン)	用途別処理量(トン)			前年比(%)			
			飲用乳等向け	乳製品等向け	その他	受託	飲用	乳製品	その他
全国	1	580,108	268,816	168,012	143,280	98.9	99.2	97.7	99.9
	4~1	5,714,261	2,776,244	1,503,425	1,434,562	100.6	98.7	104.7	100.3
岡山県	1	7,789	7,079	597	113	97.4	97.4	119.6	50.2
	4~1	75,217	70,287	3,923	1,007	99.8	99.5	106.3	97.1
北海道	1	336,778	57,692	140,216	138,870	99.1	100.8	97.4	100.1



主な行事

3月

- 2日 理事会
- 9日 評議員会
- 13日 青年部・女性部酪農発表大会・総会
- 21日 第10回おかやまB&Wショウ
- 23日 管理職会議
- 24日 岡山県酪農政治連盟美作支部大会
- 31日 理事会

4月

- 1日 現物監査
- 4日 第5回西日本B&Wショウ (~5日)
- 6日 酪青女西日本発表大会 (~7日)
- 12日 第22回蒜山高原 ジャージースプリングショウ
- 17日 2026セントラルジャパン ホルスタインショウ (~18日)
- 23日 管理職会議
酪農関係事業推進会議
- 30日 理事会

北海道初妊牛価格

2月については、初妊牛資源が減少傾向に推移したなか、春分娩中心の出回りととなり、初妊牛平均価格は税込96万円(前月比18万7千円高・前年比33万2千円高)と大幅な値上げで推移しました。

3月については、出回り頭数が引き続き減少傾向に推移することが見込まれるなか、春分娩需要の継続により、初妊牛相場は、保ち合いでの価格展開が予測されます。